

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790800082		
法人名	合資会社あんど		
事業所名	グループホーム浦西		
所在地	沖縄県浦添市当山2-10-10		
自己評価作成日	平成23年11月14日	評価結果市町村受理日	平成24年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhvu.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4790800082&SCD=320&PCD=47
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレト西205		
訪問調査日	平成23年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型サービス事業所という意識を職員全体で取り組んだ結果として、夏休みには地域の子供たちが遊びにきたり、近隣の方のご夫婦と交流を持つことができ、避難訓練にご主人が参加していただき、いろいろなアドバイスがもらうことができた。奥様も積極的に特技を生かしたカゴ作りの指導をしてくださっている。さらに浦西中学校校区の保健福祉センターの職員の運営推進会議での情報交換の際に地域での取り組みである農園を紹介があり、一緒に参加できる機会を作ってください利用者との交流に役立っている。そして今年度からはじめて真和志高校の実習生を受け入れるにあたって管理者が指導者講習を受け、実習生の指導にあたるとともに職員のスキルアップにつなげている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

日常にかかりつけ医等との連携が図られ、昨年は職員全員で利用者及び家族の思いを共有し、看取りケアに取り組まれている。利用者の表情も明るく職員と笑顔で会話するほほえましい光景が見られ、普段から一人ひとりの思いを大切にし、利用者の生活を支えている様子が伺えた。特に食事場面では3食とも事業所内で調理し、利用者ができる部分に参加してもらい、家族等から差し入れされた食物を話題にする様子もみられ、食事を楽しんでいる。職員は、常に職場を学びの場とし、成長していけるよう研修計画に沿って職員研修を計画的に行っている。また、これからの人材育成の視点から実習生を受け入れることで、職員のスキルアップにも役立つ取り組みが行われている。自己評価の項目の内容が理解されており、改善に向けた取り組みが地道に行われている(役割・楽しみごとの支援等)。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日：平成24年1月26日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場と職員駐車場途中にある家の方と、職員一人ひとりが挨拶を交わすうちに、利用者と散歩の際にお茶や庭の花の観賞に招かれたりしている。夏休みには地域で遊んでいる子供たちを招き宿題の場所の提供をすることにより、親御さんと交流ができた。	職員一人ひとりの意見を基に作られた理念は地域密着の意義を踏まえた理念となっている。理念と行動目標を居間に掲示し、職員ミーティングや運営推進会議でも理念に立ち戻り話し合っており、「常に笑顔で、利用者に寄り添う介護」を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎週月曜日に開催される「わくわく農園」に利用者と共にでかけ時々交流をおこなっている。来年3月に開催される地域おこし「ハッピーガーデン」の一員に管理者がなり、そのメンバーと共に視察に参加。さらに交流を深め相乗効果を図りたい。	自治会に加入し、地域の「わくわく農園」に利用者と共に参加し、管理者は3月に開催予定の地域活性化「ハッピーガーデン」の一員として取り組んでいる。事業所で子供達が夏休みの宿題をしたり、地域の方がカゴづくりのボランティアで訪れている。散歩へ出掛けた際、地域の方にお茶に招かれる事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年は、市役所ロビーで行われた介護週間期間中においてミニミニ勉強会を開催し地域の方々が参加した。その資料を市役所職員へ提供し活用された。校区内の8自治会へのアプローチをセンター所長と検討中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者、職員が参加し開催している。担当職員から利用者の日頃の活動状況の報告を行い職員の意識を高める工夫をしている。サービスの向上に繋がってきている。	会議は年6回、利用者、職員、行政担当者が毎回参加し開催されている。貸し農園の情報を得たり、勉強会の持ち方のアドバイス等活発に意見が交わされている。議事録から事業所の透明性が確認でき、利用者家族へ会議録の送付も行われている。しかし、外部評価結果の報告が行われていない。	外部評価結果の報告を行い、次のステップに向けた目標を達成、実現するために、委員からの意見や協力を求める事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険非該当の事例の相談を地域包括支援センターへ繋げ、新規プランや暫定プランの相談、運営推進会議における相談や保護課とさまざまな場面において常に連携が図られていると思われる。	運営推進会議だけでなく、管理者は2か月に1回開催される行政主催のグループホーム連絡会へ参加し情報交換をしている。日頃からプランについてアドバイスを受れたり、欠員情報等連携は密にされている。介護週間に市役所ロビーで管理者手作りの紙芝居で認知症の勉強会を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段のサービスを見直す検討会や研修を通して職員の意識の向上を図るとともに利用者の立場にたちサービスの提供ができていると思われる。施錠ははもちろんのことベッド柵、ミトン、立ち上がり防止帯など身体拘束の理解のもとでおこなわれている。	身体拘束をしないケアの方針を掲げ、外部研修や事業所内の勉強会等定期的に行っている。実習生を受け入れる事で拘束について理解を深める機会となっている。行動を抑制せず、利用者の自由な暮らしの支援を行っている。契約時に利用者家族へ、リスクに対する説明を行っている。施錠もされていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者本意の基本理念の理解のもと、利用者との信頼関係作りに勤めるとともに、研修などをおして虐待に対する職員の共通認識を深める努力を怠らないように勤めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護につなぐ事例は特にないが、定期的開催される運営推進会議などをおして普段から知識を深めたいと市職員と計画中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時におけるケアプランの説明や施設の概要、利用者や家族への信頼関係作りを特に重視し契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱をの設置とともに利用者や家族からの要望を日頃から聞くことができるようミーティングを利用者と共におこなっている。	利用者からは、日頃のかかわりの中だけでなくミーティングにも参加してもらい要望等を聞いている。家族からは、面会時や運営推進会議、行事参加の際に意見を聞いており、「受診時は病院へ連れてきてほしい」との要望等が出されている。管理者は更に家族から要望等を聞く機会を設けるための具体的な取り組みを検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	外部評価結果、自己評価などをおして職員が自発的に利用者本意の活動ができるように、特に運営推進会議には利用者とその日の勤務者は全員出席するようになっている。	職員全体会議が月一回開催され、勤務体制や休憩時間の在り方等、自由に意見を言える機会がある。職員からリハビリの用具が少ないとの意見がだされ用具を購入したり、利用者の利用料負担軽減等についての提案事例も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、現場の環境が向上できるように管理者や職員の意見を真摯に受け止め、計画し実行している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の力量を見極め必要に応じ外部研修の派遣や内部研修の検討など必要に応じ相談ができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡会介護者研修参加、浦添市グループホーム連絡会においても次年度から交流研修がある。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期における利用者との信頼関係が最重要と思われる為、利用者本位の考え方、意向の確認などを職員間で意識の統一を図ることとしている。新規入所利用者に対する実践により今年成功事例となりうる利用者があるということは評価に繋がることと思われる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今回、新規利用者との関係作り、利用者や家族のありようなどを鑑み、家族の要望をくみとり利用者や家族、利用者や職員との関係性の構築が図られたことなどをみても初期の家族との信頼関係づくりにおいても最重要課題と思われる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人や家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の関係性が構築された時点において利用者の機能（身体能力、見えない能力）などの見極めができ、見極めができたならすぐに実行できるように意識をし支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりができる能力を発揮できるように役割分担を一緒に探し支援をおこなえる関係性である。例：ゴミ捨て、お茶碗洗い、掃除など		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人や家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から本人がおこなっていることの評価を行い家族に伝え一緒に喜びを共有し今後に向けた支援策を家族と共に考えあえる関係性であると思われる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問や以前勤めていた場所などを聞き出しドライブのコースに取り入れ工夫をしている。	地域社会との関係の把握は主に家族からとなっている。ふるさと訪問でなじみの地域である、中部や南部へでかけたり、利用者の出身高校や利用者が以前働いていた農連市場へ出掛けている。知人が事業所を訪れられるような継続的な交流を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ある元気な男性利用者が食事を配る役割があり名前を呼び配膳することにより、歩けない女性利用者から人気者になり利用者同士いい関係性が保たれていると思われる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ある入所者の男性が2年前に在宅復帰が可能となり夫婦で在宅生活を継続中に時々訪問をしながら、相談相手や話し相手になりながら利用者と共に訪問などを継続していた。今年その男性が亡くなったあとの支援を欠かさないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	男性利用者は、爪をきらないと頑なに拒んでいる。主治医や看護師、家族、職員間で話し合いを持ち利用者本位の支援をおこなっている。	利用者の意向を把握し対応している。喫煙習慣のある利用者については、決まった場所で自由に喫煙している。今年8月から担当者制を実施したことで、利用者との関わりが密になり、行動や表情をくみ取る機会が増え、利用者本位の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	男性利用者の一人は平成20年6月入所当時のひげは未だ蓄えている。女性利用者は髪の毛の長いのが特徴で結っている。今後もその方らしく支援していきたいと考えている。掃除の習慣の利用者はほうきを持ちドライブに出かけるなどの工夫をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	喫煙場所を設けての喫煙、車椅子自走の制限を行わない、自室に戻りたいなどの暮らしぶりの現状の把握ができているものと思われる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人に沿ったプランを計画担当者が主に作成し家族に説明を行っている。今後はモニタリング等を含め家族や必要な関係者と共にアイデアを生かしたプランを作成していきたい。モニタリングについては運営推進会議を利用できればいいと思われるので検討していきたい。	利用者や家族からの要望が反映された介護計画の作成を行い実践している。モニタリングを10月から毎月行っており、介護計画の見直しは更新時となっている。状態変化のあった場合の随時の見直しは行われておらず、担当者会議へは一部利用者の参加となっているので全員の参加が望まれる。	今後もモニタリング結果に基づき、利用者の状態変化に応じた介護計画の随時見直しが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の能力や意欲を鑑み機能訓練を活かした運動会を開催を実習生と共に工夫をして開催した。個別に記録を行い計画の見直しに活かされていると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までは杖歩行が可能な利用者が圧迫骨折のため極度な腰痛訴えてきたため、車椅子での対応をしながら病院受診、改善が見られたら負担がない程度の手引き歩行を取り入れるなど個々に状態を把握した支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年に入り近所付き合いが始まったご主人が避難訓練に参加した。若い頃培った能力を活かしアドバイスをもらった。奥様はクラフトのがご作りの指導をしてもらい利用者と一緒に製作した。利用者の出身の地域においては農園を地域の方々が行っているので参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が腰が痛いからと病院受診を希望したら紹介状を持ち受診。耳鼻科受診の希望が家族からあったので受診支援をおこなった。主治医との連携は充分行えていると思われる。	近隣の医院へ通院する1名の利用者以外8名はかかりつけ医に訪問診療してもらっている。医師の方から利用者それぞれの医療的な留意点について情報提供書もらっている。事業所からは通院時及び往診時に口頭で生活情報を提供している。専門他科受診は職員で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や状態変化時などは主治医のいる看護師にその都度相談が行える関係性を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医と相談のもと健康状態が保たれるように入院を勧め、入院時の面会を蜜に行い、認知症の症状の悪化を鑑み早期退院の相談や利用者の安心した暮らしができるような支援体制ができている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年は初めての看取りがあった。今年11月にその事例を沖縄県グループホーム県大会にて発表がある。その経験を活かし終末期におけるあり方が今のケアのあり方につながる意識を職員間で高めて行きたい。	昨年度の看取りケアの経験から、利用者及び家族から看取りの希望があれば行う方針である。今後は、関係者全員で事業所における看取り指針を作成し、家族との話し合いの時期や緊急時の対応及び看取りに関する職員研修等、具体的な取り組みを検討していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応は全職員でないが行える状態であるが応急手当の初期対応や訓練は昨年に引き続き検討課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今までの課題であった地域の協力体制は1世帯ではあるものの得ることができた。今後はさらに地域力を借りる取り組みをしていきたいと考える。	事業所は法人建物の2階にあり、3月と10月に火災による避難訓練を単独で実施している。10月には地域住民の協力を得て夜間想定訓練を行い、迅速な消火器の操作、車いすごと階下へ降ろす方法等の具体的な課題を確認している。スプリンクラーは次年度設置予定である。備蓄は準備されていない。	今後は、職員会議及び運営推進会議において訓練時の課題を話し合い、すべての利用者が安全に避難できるよう建物内の併設事業所と共に合同訓練を行うことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実習生の受け入れをとおして勉強会を開催したり利用者の立場にたつての言葉かけの実践に重点をおいている。	今年度より実習生を受け入れた効果として、職員が利用者に対して意識的に言葉かけをする姿勢が見られるようになった。管理者は、指示や命令口調の言葉かけが見られた時には勉強会を通して職員に指導している。利用者が薬の説明を頻回に求めてくる場合も、丁寧に説明するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中どんな場面においても部屋に行きたいと言われたら意思を尊重し部屋に誘導する。寂しがりやで居室にて昼寝をするのが嫌な利用者には足のむくみがひどくならないようにフロアで足を挙げ自己決定の対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者から積極的な発言は特に見られないのでこれからはできる限り希望や要望を聞く機会をもうけていきたいと考える。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服など好きなものを選んでもらうなど、長い髪の女性の髪を結うこと、男性利用者の髭のたくわえなど本人らしく過ごせるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	歩行可能な方はできる限り食事の準備や片付けを毎回一緒におこなっている。	食事は事業所で調理している。職員と利用者が食卓を囲んで同じ食事を一緒に食べている。もやし等の下ごしらえや配膳・下膳等を職員と一緒にしている。また、ミカンやバナナの皮を本人自身でむけるよう職員は見守り支援している。家族からの差し入れを話題にしながら皆で楽しく食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量を記録し16時頃までには必要量は摂取できるように支援している。水分の嫌いな利用者には無理強いをせずゲーム感覚で促したり本人の気持ちを尊重するように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意のある方の訴え(さっき行ったにもかかわらず)常に耳を傾けすぐに対応ができる。尿意便意のある方の日中オムツはずしに向け検討をしまだ不十分だが実行中である。	各居室にトイレがあり、利用者は昼夜とも居室トイレを使用している。水分や排泄をチェック表で把握し、一人ひとりの排泄パターンに沿って失敗しないよう誘導している。失敗時には「すぐに取り替えましょね。」と本人のプライドを傷つけないような声かけし対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	絶対水分量の確保や便秘薬に頼らずに普段から沖縄の食材のカンダバーやツルムラサキやブルーなどを利用し工夫を重ね、改善が見られない場合には主治医に相談する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の勤務時間帯での都合による入浴もあるが本人が希望する時間帯での対応の方もいる。できるだけ本人の希望に添えるように考えていきたい。	入浴日と時間を設定しているが、「毎日入浴したい」「午後に入浴したい」と希望する場合は、本人の都合を優先して対応している。入浴を拒否する時には、本人に入浴したくない理由を確認し、難しい場合は足浴やマッサージなどを行い、入浴したい気持ちになるよう働きかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の対応により安心した睡眠が得られることもあると鑑み、日中はもとより、特に夕食後の不安にある時間帯においては意思を尊重する対応をするとともに環境なども考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	できることを見極め自立支援を心がけるとともに主治医や看護師、薬局との連携が図られている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝食後の時間帯を利用しごみ捨て、居室の掃除、洗濯物たたみ、喫煙の楽しみ、本人の好きな時間で喫煙、琉球民謡や芝居などいろいろなDVDの提供で楽しみを見つけ笑いが見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の買い物はもちろん、新しい情報を仕入れ（古宇利島ウニ丼、大宜味村のオクラレルカなど）で、できる限り出かける機会を設けている。定期的に地域の「わくわく農園」にて地域交流をしている。時には市役所への申請などにも出かける。	歩行の可能な利用者は、職員と一緒に更新申請の手続きに出かけている。ごみ出しも兼ねて階段を下り、事業所周辺を散歩する利用者もいる。また、月に1、2回は遠出の外出を行い、気分転換をしている。日常的な買い物として、近隣のスーパーまで少人数で歩いて出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の好きなものや欲しいものを買えるように支援するとともに家族に依頼してお小遣いをもらい職員が管理し家族に報告をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はほとんどないが家族の心配をする利用者においては要望に応じて支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの空調はもちろん、利用者全員が見るテレビの高さの調整を行い、落ち着いた音楽をながしたり、ごみ捨てや散歩の途中に見つけた草花を飾ったり、雨の日はベランダで雨を鑑賞したりなど季節を感じるように支援を行っている。	共用空間の居間で利用者と一緒に会話を楽しんでいる風景は、暖かく感じられ家庭的な雰囲気であった。手作りのれんがが居室入口に飾られ、季節感が見られた。昼食後は、照明を半減してゆったりと居室で午睡できるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話のできるグループにおいては会話を楽しみ交流がなされている。対人関係の構築の難しい利用者は居室にて本人らしく過ごすことができ、タバコタイムも本人が決めて楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの道具は不十分ではあるものの家族や利用者で過ごした時間を共有できるように写真を掲示し思い出話の提供を行っている。	ベッドと備え付けのタンスは事業所で準備している。居室への持ち込みは自由である。家族の面会時は、居室でゆっくりと話し合えるよう椅子が準備されている。敬老会等行事の写真や利用者の似顔絵が壁に貼られている。また、これまでの生活習慣を配慮し、畳間の居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることやれることを見極めごみ捨て、配膳、茶碗洗いなど職員が意識しながら支援している。		